

本を紹介します

親と子と教職員の教育相談室 徳永恭子

「教育相談」 2015年 弘文堂発行 著者 津川律子・山口義枝・北村世都編

最近出版されたこの本は、教育相談の基礎を書いた本だと言えます。第Ⅰ部は、教育相談で学ぶこと、第Ⅱ部は、教育相談に必要なメンタルヘルス、第Ⅲ部は、教育相談の実際、第Ⅳ部は、教育相談における基本的態度、第Ⅴ部は、教育相談に役立つ心理支援、第Ⅵ部は教育相談のための連携と協働の6部構成になっています。長く教育相談に携わってこられた方や教職員の方は、周知の内容と思われるかもしれませんが。しかし改めて、初心に返って読んでみると、新し

い発見やほっとさせられることがたくさんあります。アディクション、パーソナリティ障害、不安症の問題、発達障害の問題、アサーションの内容など幅広く書かれています。また、保護者支援のポイントなども参考になると思います。学内連携の仕方、児童相談所との連携の必要性、医療機関の連携のポイントも丁寧に、網羅的に書かれているので、必要なときにその章だけを読むなど、辞書的活用もできると思います。

つぶやき

このコーナーでは各県の相談に対するとりくみ等を紹介していきます。

【取組紹介】

今どきの1年生 横浜市教職員組合 齋藤 智子

今日もまた、1年生が母親に付き添われ、泣き顔で登校してきました。昇降口で中に入るように母親に促されていますが、子どもの方は母親にしがみついて容易に離れません。今年はこの子で7人目です。

入学式から1か月ほど経った頃から、1年生に登校しぶりが出始めました。入学式では校長先生や担任から「みなさん、元気に学校に来てくださいね。」といわれて、「はい！」と元気よく返事をして子どもたちでしたが、少し疲れてきたのでしょうか。この時期に登校を渋り始める1年生は、年々増えているように感じます。

児童支援を担当している私は、昇降口で動きが取れなくなっている親子に近づいて声をかけ、渋っている理由を聴いてみます。友だちとケンカしたとか、給食で嫌いなものが出るとかの理由ならば、すこし負担を減らしてあげられるかもしれません。

「学校、長いからヤダ。5時間目があるんだもん。」

うーん、困りました。そう言われても、我慢して慣れてもらうしかありません。嫌がっている理由がわかってもどうしようもないことがしばしばです。

「ママがいい。ママと一緒にいい。」

「だって、先生があれしなさいとか、これしなさいとかいっぱい言うんだもん。」

という理由もありました。しがみつかれている母親の方も、困った顔をして私の顔を見ます。

幼児期の社会的な経験が減ったせいでしょうか、入学してくる1年生が年々幼くなっているように思います。それに対して、受け入れる学校には、ゆっくり慣らしていけるような時間的な余裕がありません。以前は入学後しばらくの間、給食もなく4時間で終了の日が続きました。今はすぐに給食が始まり、毎日5時間授業になります。その上、学校が終わっても家ではなく、放課後保育の場に向かう子どもも多くいます。

今どきの1年生は大変だなあ、と子どもの泣きを聴いていてつくづく思います。